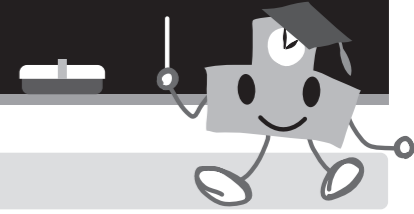


小学校の事例 清田区 美しが丘小学校

児童会が主体となった「リングプル収集」。子供たちが協力してくれるお店を開拓。

10年前からリングプル収集を行い、車いすを寄贈している。社会に役立つと感じるようになり、リングプルもごみと思わなくなった。学校と地域と一緒に活動することにより地域へ目を向けていきかけとなっている。



内容 地域と一緒にリングプルを収集

10年ほど前に児童会の子供たちが、たくさんのリングプルを集めるために「学校以外にも協力してもらおう」と考え、地域のお店に声をかけたことをきっかけに、学校と地域でリングプルの収集を行うようになった。活動は現在も引き継がれている。スーパーマーケット、銭湯、パチンコ店などに回収箱を置いてもらい、地域の人やお店に協力をいただいている。

集めたリングプルを毎年1台は車いすに交換し、地区センター、区役所などに寄贈している。



玄関ホールの回収BOX

効果 社会の役に立つ喜びを実感

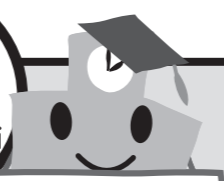
車いすの寄贈の際は、回収に協力してくれた地域の方々を招き、全校集会で贈呈式を行った。自分たちの活動の最終地点を見ることで、「また頑張ってみよう」という意欲が高まっている。贈った車いすを利用している方の母親から学校にお礼の手紙が送られてきたこともあり、自分たちの行いが社会の役に立っていることに子供たちは喜びを感じるようになり、リングプルやペットボトルのキャップを見ても「ごみ」と思わなくなった。その手紙を読んだ児童会の子供たちだけではなく、学校全体で「誰かの役に立つこと」と「環境活動」のつながりが確認でき、更に積極的に行動している。地域の方と一緒に活動を行って、それが地域の役に

立つことで、自分の家庭だけでなく地域へ目を向けていきかけとなっている。この取組に費用は全くかからない。車いすを有効に使ってもらえる受入先を探すのに少し苦労があるが、地域と連携して行いやすい取組のひとつになっている。



車いす贈呈式の様子

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



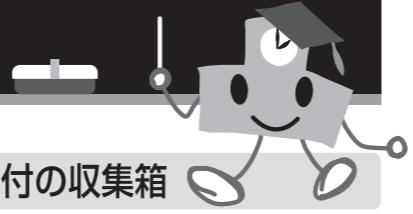
実施校から
メッセージ

協力店からリングプルが「集まった」と連絡をもらったら、教職員が車で取りに行くなど迅速に回収することが大切。また、地域ばかりではなく、児童の家庭からも回収を行っています。

小学校の事例 清田区 美しが丘緑小学校

児童会館と協力しながら全校で取組むリングプル収集。

収集した結果が目に見えるため、子供たちの興味や関心が高まりやすく。地域の方の協力も広がり、環境について広く考えるようになった。



内容 本校用務員が作ったドラム缶を再利用したキャスター付の回収箱

本校では、地域にある児童会館と協力してリングプルの収集に取り組んでいる。校内に設置されている回収箱は、ドラム缶を再利用して本校の用務員が作ったもの。移動しやすいように底にキャスターが付いており、側面には「どれだけ貯まったのか」がわかるような縦長の小窓も付けられている。町内会や協力的な近所の団地の方が集めたものをもってきてくれることもあり、一緒に回収箱に入れて貯めている。

収集にあたっては、ポスターなどは作っておらず、児童が登校時に少しずつ持参するなど、児童に負担がかからない範囲での取組を続けている。



ドラム缶を再利用

今後 結果が見えるリサイクルでエコへの関心を

本校では、教職員が積極的に紙の再利用に取り組んでいる。裏面が白く、再利用できる紙を「リユースペーパー」として使い、使用後はまとめ、紙ごみとして資源回収に出している。また、給食の牛乳パックのリサイクルにも取り組んでいる。「牛乳パック〇枚で、トイレペーパー〇つできる」など結果が目に見えるようにすることで、児童の環境やエコに対する興味や関心を高めていけるのではないかと考えている。平成23年冬に、ソーラーパネルが設置され、発電・活用状況がモニターで見分けることから、今後、環境やエコへの関心が高まっていくことが期待される。



リユースペーパーであることを表示

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

活動を継続していくには、続けられることを続けていくことや、日頃の取組を大切にすることが重要だと考えています。本校は、牛乳パックの回収やグラウンドの清掃などにも取り組んでいます。無理のない範囲で、楽しみながら続けていきたいと思っています。